

## 植物グループ活動報告

岩波均\* 白鳥保美\* 武居三男\* (\* 諏訪教育会) 名取陽\*\* (\*\* 専門委員)

植物グループでは、八ヶ岳を中心とした諏訪の植物について、地域の自然誌研究の基礎となる、植物の分類、植生、生態を広く、観察研究する事を目標とした。

今年度は、まず博物館を中心とした身近な山地に生息する植物について研究を開始した。

第1回 小泉山のスミレを中心にした春の植物観察会 (諏訪教育会と共催 一般公開)

5月11日(土) 13:00~15:00 参加者 15名 指導者 武居三男

春の妖精植物といわれるスミレを中心に、身近な地域の山、小泉山の春咲植物の観察を計画したが、足元最悪の雨天のため、急きょ博物館室内でのスライド写真による学習会に変更した。多数の記録写真による詳しい植生分類学習がなされた。

第2回 守屋山系の植物採集観察調査

6月8日(土) 上社前宮集合 8:00~13:00 参加者 19名 指導者 岩波均

諏訪大社前宮上から杖突峠まで、西山山地帯の植物を採集調査した。

各自が採集した植物を持ち帰り押し葉し、標本作製実習を行った。実地に自生する植物を、生で観察し採集し標本とする、貴重な体験となった。

第3回 八ヶ岳硫黄岳高山植生生態観察調査

7月7日(日) 美濃戸集合 7:00~16:30 北沢赤岳鉱泉經由硫黄赤岩の頭折り返し

参加者9名 指導者 名取陽

美濃戸山荘前から硫黄岳山頂手前赤岩の頭まで、標高差700mの亜高山帯常緑針葉樹帯から森林限界をはさんで高山帯まで、環境による植物生態変化を観察調査した。美濃戸北沢、山の神(標高2000m)に自生するチョウセンゴヨウとシラビソの胸高直径を測定記録した。

亜高山森林の静謐さと、多数の美しい高山植物の花の観察もできた。

第4回 霧ヶ峰八島が原湿原自然観察会(諏訪教育会と共催 一般公開)

7月20日(土) 七島八島駐車場集合 7:00~12:00 参加者19名 指導者岩波均

諏訪教育会自然研究会植物、陸水、鳥・動物、気象の先生方の指導により、八島ヶ原高層湿原の植生や自然について、諏訪地域の多数の児童生徒とその保護者ともども、晴天に恵まれた夏の霧ヶ峰高原のさわやかな雰囲気の中、地域の自然誌を知る良い観察会であった。

第5回 大泉山多留姫滝植物観察調査

8月24日(土) 多留姫神社集合 9:00~13:30 参加者6名 指導者 白鳥保美

多留姫神社北の柳川川原から標高970mの社叢および大泉山南斜面1060mに見られる植物の観察を行った。晴天にめぐまれ耕作地、社寺林、川岸湿地、里山林床原野、車道沿いの草本、木本、シダや特定外来帰化植物の観察を行った。

第6回 八ヶ岳縞枯山高山植物植生生態観察調査(諏訪教育会と共催)

10月12日(土) ピラタス駐車場集合 8:00~16:00 参加者5名 指導者武居光男

ピラタスロープウェイを利用して、秋の紅葉期の高山植生の生態観察を行った。

歩行もままならないほどの強風のなかで、厳しい環境の下に生活する高山植物の生態を実地に即し観察することができた。縞枯れ現象について、その原因となる気象や地質、植生などの要因について生態系を見わたしながら論議し学ぶことができた。

第7回 講演会 諏訪の希少植物について (諏訪教育会共催 一般公開)

11月9日(土) 博物館 13:00~15:00 参加者9名 講演者 岩波均

諏訪地方の植生について、その多様性の特徴やヤツガタケトウヒ、アツモリソウなどの希少性について、多くの写真映像により詳しく紹介された。

諏訪地方の自然についても、植物を通してその特質を学ぶことができた。

第8回 阿弥陀岳御小屋尾根 御柱山の植物生態観察調査

12月1日(日) 博物館集合 8:00~16:00 参加者8名 指導者 名取陽

美濃戸別荘地脇駐車場標高1500mから初冬の山地林の草本や木本の生態を観察しながら標高1600mの諏訪大社御柱林をめざした。休眠期の種名の同定の困難さも実感しながら、ダケカンバの分布下限を確認し巨木に囲まれた大社林に到着した。シラカンバ、ダケカンバなど広葉樹や、ウラジロモミ、トウヒ、シラビソ、コメツガなどの針葉樹の分類や分布を確認し、標高1900mまで尾根筋に沿って御柱の森の生態系を観察した。育林のため伐採された樹木幹材も採取できた。

第9回 講演会 赤道下高山の極限植生と八ヶ岳高山植物の生態について (一般公開)

1月12日 博物館 13:30~15:30 参加者9名 講演者 名取陽

標高の変化による環境作用の影響が良く観察できる、赤道直下のアフリカのケニヤ山(標高5200m)やキリマンジャロ山(標高5900m)、アンデス山地のカヤンベ山(標高5790m)に生育する高山植物の低温や乾燥に対する適応生態のスライド紹介と、八ヶ岳の高山植物の環境適応および、御小屋尾根でのソバの生育実験や生態系での森林限界の重要性について発表された。

第10回 御柱山 樹木幹材標本年輪測定研究会

1月26日(日) 博物館 13:00~17:00 参加者8名 指導者 名取陽

諏訪大社から寄贈された御小屋神社林の樹木幹材の年輪測定記録を行った。シラビソ、コメツガ、ミネザクラ、ダケカンバ、ハクサンシャクナゲの幹片を各自1標本受け持ち、ルーペと定規を用いて年輪の計測を行った。測定値と諏訪測候所の観測気温をグラフ化して、生育環境との関連について考察した。

第11回 講演会 諏訪の植物分布について

2月15日(土) 前日からの記録的大雪のため急きょ中止

第12回 今年度活動のまとめと活動展示発表会準備会

2月23日(日) 博物館 13:00~16:00 参加者7名 指導者 岩波、白鳥、名取

今年度のレポート提出と活動のまとめを行い、活動の展示発表会について企画した。

植物グループ参加者

大塚光子 大塚敏子 猿田陽子 桑垣文子 井村悦子 牛山志穂 上原妙子 小山京子  
宮澤弘宣 小林 豊 奥原 聡 牛山恵一 野崎順子 池澤正秀 田中宏和 矢島三喜子  
上原裕雄 北澤俊弘